

孤立死を防止する対策の 必要性に対する認識は

問 孤立死の防止について、①対策の必要性に対する認識は。②本市の支援体制と具体的な取組は。

答 福祉事務所長／①孤立死は、人間の尊厳を損なうもので、遺族や近隣住人、家主、関係する公的機関等に、心理的・経済的な負担を与えるだけではなく、地域のつながりや活力を損なう要因となることから、孤立死の防止対策は重要な課題であると認識している。②孤立死を防ぐためには、支援機関や地域の方々が緩やかに見守り、体調の変化や困り事を察知した際には声かけ等で支援に

つなげることが望ましいと考えている。本市では、民生委員や介護事業者、関係機関と連携した支援に加え、警察署や自治会と協力して周知活動に取り組んでいる。また、生活保護を受給している孤立のおそれのある人に対しては、通常の世帯訪問に加え、電話連絡で安否確認を実施しているが、このようなセーフティーネットで把握しきれない人もいることから、今後対象者のさらなる把握に努めるため、地域と支援機関のなお一層の連携強化と周知・啓発が必要であると認識している。

平野 謙



ひとり親家庭の養育費等に関する 支援を行う考えは

問 ひとり親家庭に対して、養育費の取決めや未払いの養育費確保の支援を行う考えは。

答 福祉事務所長／児童の養育のためには、養育費等について離婚前に十分に話し合い、取決めをしておくことが重要であるが、取決めをせずに離婚したり、相手方の事情により取決めどおりの受け取りができないことで、経済的に困窮する場合がある。そのため、養育費の取決めを公正証書等の書面に残すことや養育費確保のための保証契約に関する支援を行うことは、その後のひとり親家

庭の生活の安定に資すると思われる。今後は他市町の状況等も確認しながら支援の方法を検討していく。

問 核兵器廃絶平和都市宣言の周知についての取組は。

答 市長／本市は昭和六十二年三月二十日に核兵器廃絶平和都市を宣言して以来、平和を考える小中学生作文集の刊行や原爆パネル展の開催、モニタメントの設置など様々な取組を行ってきた。今後は、公用車へのラッピングなど他の事例も参考に、引き続き核兵器廃絶平和都市宣言の趣旨を広く周知・啓発していく。

高橋 秀子



用語解説



※1 ユマニチュード (P.4)

ユマニチュードは、フランスの二人の体育学の専門家により開発され発展した、高齢者や認知症の方への支援に特化した人間の尊厳を尊重するケアの技法。「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つの柱を基本として、相手の目を見て安心感を伝え、優しく話しかけ、触れることで信頼関係を築き、可能な限り立つ支援をすることで相手の尊厳を守りながら自主性を引き出すことを目指すもの。認知症の方の不安や混乱を減らすとともに、ケアする側の負担軽減にもつながるとされ、日本でも、介護や看護の現場に限らず、自宅での介護においても広く用いられている。

※3 孤立死 (P.7)

孤立死という言葉に統一された定義はないが、内閣府の「孤独死・孤立死」の実態把握に関するワーキンググループでは、「誰にも看取られることなく死亡し、かつ、その遺体が一定期間の経過後に発見されるような死亡の態様」と表現されている。

※2 富士箱根伊豆国立公園 (P.5)

富士山を北端として富士火山帯に属する各種火山地形や温泉、変化に富む海岸線や島々からなる火山国日本を代表する国立公園のこと。本公園は、富士山を中心にその周辺の湖沼や高原を含む富士山地域、東海道の宿場町で古くから温泉地として名高い箱根地域、天城連山と変化に富んだ海岸線と温泉が魅力の伊豆半島地域、今日でも火山活動が活発な島々を含む洋上の火山島からなる伊豆諸島地域の4地域に分けられる。至るところから秀麗な富士山が眺望できるほか、首都圏に近いこともあり、日本で来訪者が最も多い国立公園である。



▲富士箱根伊豆国立公園の指定を受ける大瀬崎から望む富士山